暮らすなら茨木

抜群の交通アクセス 移動に便利

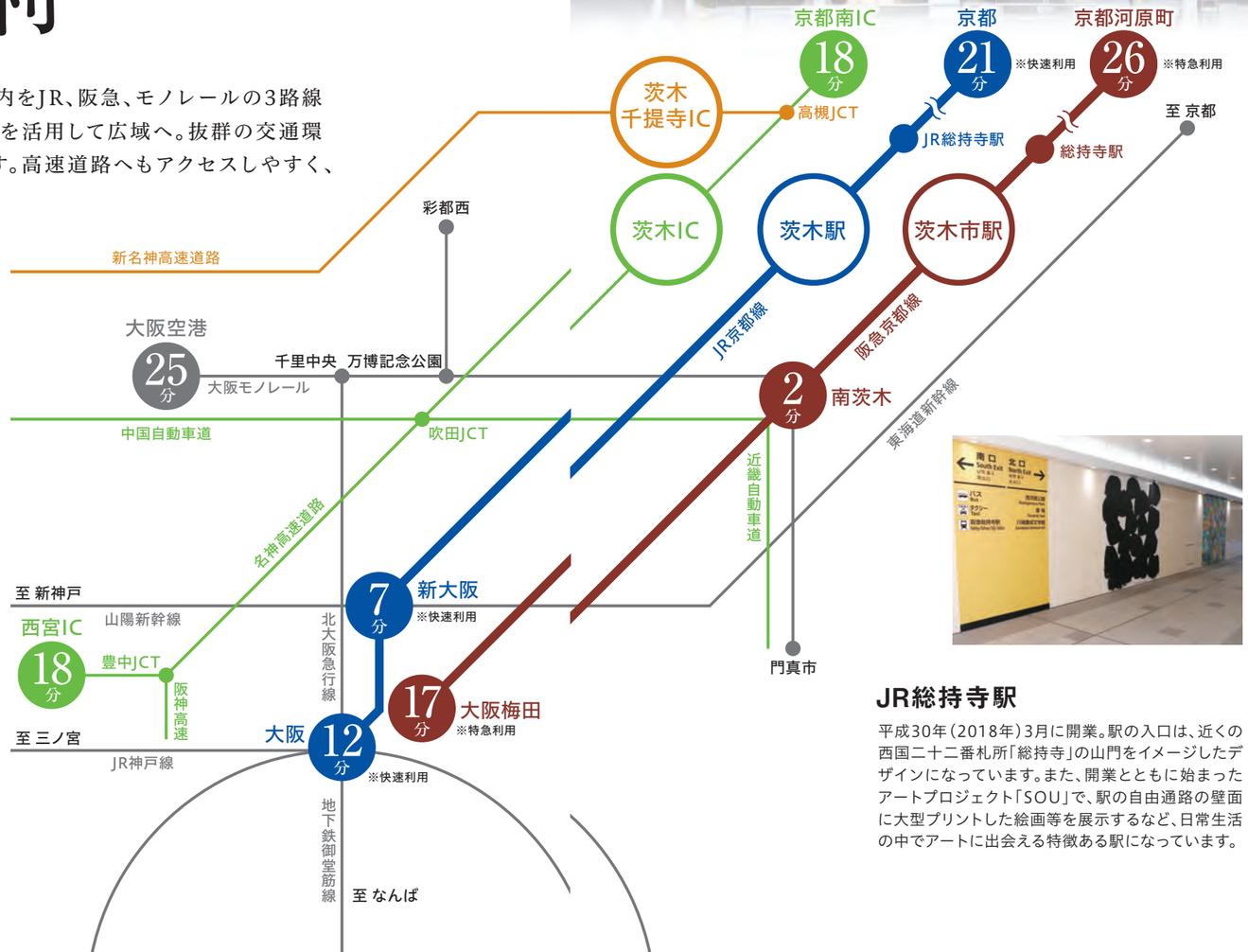
茨木市は、大阪と京都の中間に位置し、市内をJR、阪急、モノレールの3路線が通ります。大阪、京都へ、新幹線、飛行機を活用して広域へ。抜群の交通環境は毎日の暮らしを支える大きな魅力です。高速道路へもアクセスしやすく、自動車移動も便利です。

● 抜群の交通アクセス

鉄　道
- ＪＲ・阪急を利用でき大阪、京都に直結
- ＪＲ新大阪駅からの新幹線利用が便利

自動車
- 名神高速道路 茨木ICが市内中心部に立地
  神戸方面へ→西宮ICまで約**18**分
  京都方面へ→京都南ICまで約**18**分
- 新名神高速道路 茨木千提寺ICが市北部に立地

飛行機
- 大阪国際空港・関西国際空港利用が便利
  大阪国際空港（伊丹）
  →大阪モノレール南茨木駅から大阪空港駅まで約25分
  関西国際空港
  →ＪＲ茨木駅東口、阪急茨木市駅東口から
  リムジンバスで約70～80分

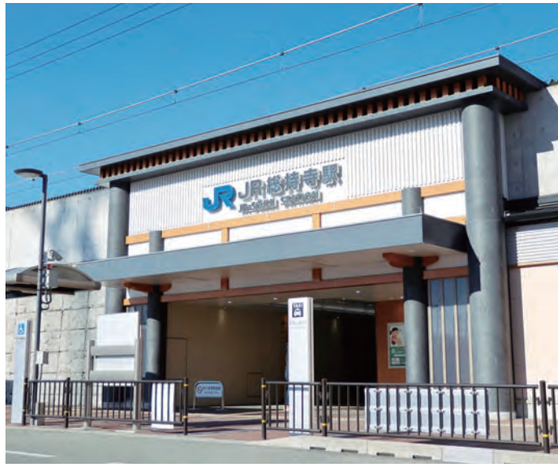


JR茨木駅

平成30年（2018年）、駅構内のエスカレーター新設や新店舗の開業などのリフレッシュ工事により、茨木駅はますます便利で活気に満ちた玄関口に生まれ変わりました。東口駅前広場は、市民公募により決定した「いばらきスカイパレット」という愛称で親しまれています。

JR総持寺駅

平成30年（2018年）3月に開業。駅の入口は、近くの西国二十二番札所「総持寺」の山門をイメージしたデザインになっています。また、開業とともに始まったアートプロジェクト「SOU」で、駅の自由通路の壁面に大型プリントした絵画等を展示するなど、日常生活の中でアートに出会える特徴ある駅になっています。



暮らすなら茨木

逢いにいきたい麗しき風景

茨木市は中心部に広大な緑地や花の名所が点在し、四季折々美しい自然風景を身近に楽しめます。
山間部はのどかな田園と里山が広がり、都会では見ることができない風景に出会えます。

自然美の宝庫 いばきた

市街地からバスで約40分、茨木市北部の通称「いばきた」は、のどかな田園風景が広がる地域。
おすすめのサイクリングコースもあり、山々に囲まれた棚田や水辺などをめぐることができます。

下音羽川

清溪地区の棚田

見山地区のあじさい

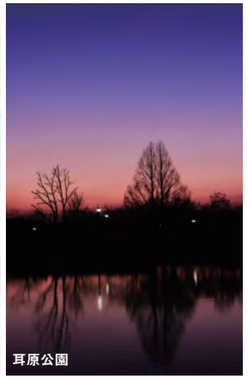
元茨木川緑地（大阪みどりの百選）

全長約5㎞の緑地に桜をはじめ40種類以上の樹木が植えられています。散策やジョギングなど市街地の憩いの場として、子どもから高齢者まで広く親しまれています。アート作品なども設置され、見どころが豊富です。現在は、植栽環境の健全化や市民が利活用できる仕組みと空間づくりをめざす「リ・デザイン」を進めています。

桜の名所で知られ、毎年春は多くの人でにぎわいます。

彩都はなだ公園

桑田公園


耳原公園

公園がいっぱい

市内各所に、約120か所の魅力的な公園があり、いつも大勢の人たちでにぎわっています。

西河原公園（大阪みどりの百選）

従来の樹木や竹やぶ、用水路をそのまま活かした自然豊かな公園です。野鳥や昆虫が飛び、園内のせせらぎには小魚が泳ぐなど、市街地にいながら自然を感じられる場所です。

若園公園バラ園

茨木市の花、バラが約180品種、約1,750株植えられています。見ごろは5月上旬～6月上旬と10月下旬～11月中旬。園内が豊かな彩りと香りに包まれます。

暮らすなら茨木

ぬくもりのあるまちで安心子育て

妊娠から出産、子育てまでその時々に必要な支援が充実しています。また、地域全体で子育てを温かく見守る体制が整っています。

01 妊娠・出産したら

妊婦健康診査費用を14回まで助成

大阪府内の委託医療機関や助産所での妊婦健康診査を14回、計12万円まで助成。

母子健康手帳の交付

安心して出産・子育てができるよう、母子健康手帳の交付の際に、保健師・助産師が一人ひとりの妊婦と面接し、妊娠・出産や子育ての相談をお受けします。

産婦健康診査を助成

産後間もない母親のこころとからだの健康保持や産後うつ病の予防のための産婦健康診査を2回、計1万円まで助成。

こんにちは赤ちゃん事業

赤ちゃんがいるすべての家庭を保育士等が訪問。赤ちゃんの様子などをお聞きし、子育てに役立つ情報をお届けしています。

02 子育てのサポート

こども医療費の助成制度

18歳（高校3年生）までの子どものけがや病気による、通院・入院の医療費を所得制限なく助成しています。

つどいの広場

未就学児と保護者が気軽に集い安心して遊べる場です。スタッフによるふれあい遊びや、育児に関する情報提供を行っている身近な子育て支援拠点で、市内各地にあります。

一時保育の体制が充実

子育て支援総合センターや子育てすこやかセンター、つどいの広場などで、保護者の病気や冠婚葬祭などにより、一時的に家庭での保育が困難になった子どもを預かる一時保育を実施しています。

03 こどもの居場所・相談場所

ユースプラザ

おおむね中学生～39歳の子ども・若者が対象で、不登校・ひきこもりなど辛くなったときに安心して過ごせる居場所です。さまざまな社会体験ができ、保護者の相談も受け付けています。

茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」

自分の人生を“自分らしく”生きるために、さまざまな悩みを抱える子ども・若者とその家族を関係機関と連携しながらサポートします。

多世代交流センター

子どもや高齢者が自由に利用できる施設です。遊びやイベントを通して、交流しています。

ともに備え いのちを守る安全・安心なまちづくり

安全で安心して暮らせるまちの実現に向けて、市民の命と暮らしを守るため、地域で支え合う自主防災、子どもの安全を見守る環境整備、消防救急体制の強化など、「いざ」に備える万全のまちづくりを進めています。

防災力の向上

自分たちでまちを守る

自主防災会、大学、企業などと連携した防災訓練や、子育て世代や若い世代を対象とした防災講演会などを実施しています。災害用備蓄品の整備、情報伝達体制の整備も進めています。

自主防災会

災害時に役立つ公園づくり

一時避難地に指定している公園では、災害発生後の一時的な避難を支援するために、防災機能を有する設備を設置しています。また、一部の公園では耐震性貯水槽を整備し、飲料水などを確保しています。

〈災害時〉

マンホールトイレ

平常時は駐輪場などですが、災害時には災害用トイレとして利用します。

かまどベンチ

災害時にベンチの脚部をかまどとして利用します。

〈平常時〉

〈災害時〉

防犯環境の整備

青色防犯パトロール車の配置や通学路等への防犯カメラの設置を行い、地域の安全・安心につなげています。

青色防犯パトロール車

防犯カメラ

消防・救急体制の強化

多様な災害に対応するために、さまざまな災害を想定した訓練を行い、消防職員および消防団員の災害対応能力の向上に努めているほか、最新の車両・資機材を導入しています。また、今後増加が見込まれる救急需要に対応するために、救急隊員の能力向上と医療機関との連携強化を行い、円滑な救急活動体制の構築に努めています。